発表内容の概要

今回のワークショップでは、「交流」ってなんだろう？「まち」とつながるには？ をテーマに皆さんに考えていただきました。今回は発表いただいた内容を一部抜粋してご紹介をさせていたただきます。

あじさいグループ

「交流」って何だろう？

まちのことに多世代が関わるためにも、まずはみんなが登米市を好きになることが必要。雑談など一緒に話すことと、趣味の活動など一緒に何かに取り組むことが交流になる。

「交流」が生まれるためには何が必要？

集まれるような「場所」と「人」がいれば、何となく交流になる。これがあれば、目的が無かったとしても交流が生まれてくると思う。

「施設」の「交流」をまちへひろげる、つなげるには？

最初に来た人から伝わって次の人が来るような、それを繰り返して広がっていければ良いと思う。そのきっかけになるような、集まることができる場になれば良い。

ながぐつグループ

「交流」って何だろう？

知らなかったことを知る、参画すること、ふれあいの場、一つの目的で集まるほか、人とつながることによって「ときめき」が生まれる。その「ときめき」を生むためには、「婚活」などの手段があると思う。

「交流」が生まれるためには何が必要？

「ときめき」や感動が交流を生むため、集まることやイベントを開催できるような、やりたいことが出来る場所という意見が出た。

「施設」の「交流」をまちへひろげる、つなげるには？

まずは施設について情報発信することが大切。市内だけでなく、観光で来た市外の方とも継続して交流することが未来につながる。また、地域で知識のある人を「登米の達人」として、達人によるセミナーなどを開くことで、地域のことや知識を子ども達の未来へつなげることが出来る。

かえるグループ

「交流」って何だろう？

人と人が交わること、話すこと、様々な活動など色々な意見があったが、一番大事なのは気遣いやお互いの気持ちを思いやるなどのマインド面だと思う。みんながポジティブな気持ちを持つことが、交流の第一歩になると思う。

「交流」が生まれるためには何が必要？

ハード面（必要な機能など具体的なもの）では、登米市の特産品を購入できるお土産店や、バリアフリーな施設、交通網の整備などの意見があった。ソフト面（気持ちなど目に見えないもの）では、過ごしやすい、楽しいと思えるような雰囲気などの意見があった。

「施設」の「交流」をまちへひろげる、つなげるには？

多くの人に受け入れやすいコミュニティづくりや、コミュニティカフェのような機能を持つ移動図書館、情報発信が大事という意見が出た。また、市民バスやデマンドタクシーなどの交通網でも、この施設だけでなく地域間の移動もあわせて、乗りやすいと思えるような体制づくりが必要。誰でも参加しやすい食べ物やスポーツのイベント、図書館に関するイベントという意見もあった。施設を運営するボランティアの育成は、今から始めなければならない。

かっぱグループ

「交流」って何だろう？

一番は人が集まる所が大切で、そのために楽しくわくわくする施設であることが重要。また、運営するのは行政主導ではなく、民間で行った方が上手くいくと思う。

「交流」が生まれるためには何が必要？

子ども達の遊べる場所として、屋内遊戯施設が欲しい。また、１日その場所に居られるように飲食スペースも作って、キッチンカーをなども呼べると良い。キッチンカーを呼ぶためにも電源などのインフラ整備も必要。

「施設」の「交流」をまちへひろげる、つなげるには？

イメージが難しかったので、「施設の交流の輪を広げるには？」というテーマで話し合いをした。市民が作る交流の場でなければ意味がないので、やはり民間が運営を行うことが大事だと思う。民間が運営を行って、積極的に SNS などを使って情報発信することやアンケートをするなど、運営側の顔が見えると良い。また、施設の立地的に一部の地区からは遠いので、足が無い若者や高齢者のためにもデマンドタクシーなどの細かい交通網の整備が必要になる。交流の輪を広げるには、20 代や 30 代の若者が重要になる。若者が集まるから活気が生まれて、他の世代も集まりやすくなると思う。また、子ども達がチャレンジできる場所になれば良いと思う。